

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

| | | | |
|--------|---|---|--|
| 事業名称 | 令和2年度 創業・アクションプロモーション事業 | | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 株式会社ウィルパートナーズ | |
| | 行政 | 横浜市経済局経営・創業支援課 | |
| 事業の目的 | 委託者及び受託者は、Webサイト「スタートアップサポートヨコハマ」において、横浜での創業やスタートアップ期の事業者役に役立つ、官民合わせた様々な支援や関連イベント情報、本市施策を活用し活躍している起業家の情報などを幅広く発信することで、まち全体で横浜での創業を応援していることを広くPRし、起業しやすい風土づくりを推進するという事業目的を共有する。また、横浜の未来を担う学生や若者を対象に、「若者向け起業家マインド育成プログラム」を開催し、横浜での創業機運を高めることを目的とする。 | | |
| 事業の内容 | Webサイトのデザイン・レイアウト変更やWebサイトの管理・運営、創業全般に関する情報の効果的な発信、WebサイトのPR、事業目的に沿った創業全般に関する情報の収集。また、若者向け起業家マインド育成プログラムの開催 | | |
| 役割分担 | 事業項目 | 受託者の役割 | 委託者の役割 |
| | Webサイトのデザイン・レイアウト変更 | 1 デザイン・レイアウト等の修正 | 1 デザイン・レイアウト等の修正に関する企画協力・連絡調整等 |
| | Webサイトの管理・運営 | 1 横浜の創業情報を一元化して紹介するWebサイト「スタートアップサポートヨコハマ」の管理・運営 2 アクセシビリティ及び文法等のチェック | 1 Webサイト管理運営等に関する連絡調整 2 Webサイト管理運営等に関する情報提供 |
| | 創業全般に関する情報の効果的な発信 | 1 次の項目を中心とした創業に関する情報の発信(随時) (1)起業家へのインタビュー記事の作成・掲載 (2)収集した情報をWebサイト等にて発信するための記事の作成・掲載 (3)メールマガジンの原稿作成・配信 | 1 収集した情報をWebサイト等にて発信するための記事の作成・修正・確認 2 メールマガジンの原稿作成・配信に関する連絡調整 3 Webサイト等掲載、メールマガジン配信に関する情報提供 4 その他事業の実施において必要な事項への調整や協力 |
| | 事業目的に沿った創業全般に関する情報の収集 | 1 次の項目を中心とした創業に関する情報の収集・取材(随時) | 1 創業に関する情報の収集・取材に関する企画協力・連絡調整 |

| | | | |
|------|-----------------------|--|--|
| | | (1)助成金等支援の情報 (2)イベント・セミナーの情報 (3)創業を取り巻く最新の状況 | |
| | WebサイトのPR | 1 Webサイトのアクセス数、メルマガ登録者数、Facebook・Twitterいいね！数増加に向けた取り組み | 1 Webサイトのアクセス数、メルマガ登録者数、Facebook・Twitterいいね！数増加に向けた取り組みに関する連絡調整や協力 |
| | 若者向け起業家マインド育成プログラムの開催 | 1 参加者の掘り起し及び募集、受付の実施 2 連続講座の開催 3 ビジネスプランの作成・発表会の開催 | 1 若者向け起業家マインド育成プログラムに関する企画協力・連絡調整 2 参加者の掘り起し、広報協力 3 その他事業の実施において必要な事項への調整や協力 |
| 実施期間 | 令和2年4月1日～令和3年3月31日 | | |

| | |
|-----|--|
| 記入日 | 令和3年6月30日 |
| 記入者 | 団体名：株式会社ウィルパートナーズ 記入者：辺見、馬場 連絡先：045-228-9078 |
| | 部署名：経済局経営・創業支援課 記入者：加藤、近藤 連絡先：045-671-2748 |

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックを行うシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証を行います。

◎相互チェックシートの評価基準

| | | | |
|-------|---------|-----------|------------|
| よくできた | まあまあできた | あまりできなかった | まったくできなかった |
| A | B | C | D |

① 事業計画段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|---|-----|----|
| 1 | 自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。 | A | A |
| 2 | お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。 | A | A |
| 3 | ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。 | A | A |
| 4 | 実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。 | A | A |
| 5 | 会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明しあっよく理解することができましたか。 | A | A |
| 6 | 事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使っ市民に発信することができましたか。 | A | A |

② 事業実施段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|--|-----|----|
| 1 | 率直な意見交換のもとに、お互いに対等な立場で事業を進めることができましたか。 | A | A |
| 2 | お互いの強みや得意分野を、どう生かしあえるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。 | A | A |
| 3 | 相手に任せっきりせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。 | A | A |
| 4 | 事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などを振り返り、修正しながら取り組むことができましたか。 | A | A |
| 5 | 必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業を進めることができましたか。 | A | A |
| 6 | 事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。 | A | A |
| 7 | 事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使っ市民に発信することができましたか。 | A | A |

③ ふりかえり段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|---|-----|----|
| 1 | 協働することで、単独で行うのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。 | B | B |
| 2 | 受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。 | A | A |
| 3 | これまでを振り返っ、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認することができたか。 | B | B |
| 4 | 期待された事業成果を得られることができたか。 | A | A |

2 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートで行った結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

| |
|--|
| 事業の計画づくり (協働して事業計画を作るにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか) |
| 【共有できたことや認識に違いがあったこと】 web サイトの運営や創業全般に関する情報発信、若者向け起業家マインド育成プログラムの開催等、相互の強みを生かして、事業の計画を練ることができた。 |
| 【今後改善が必要と思われること】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、web サイトの PV 数が大幅に増加した。情報発信も増やし、事業者が必要とする情報をタイムリーに届けるため、さらなる周知を行い認知度を上げられるよう、双方の認識を合わせておくことが必要。 |
| 事業実施 (協働して事業計画を作るにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか) |
| 【共有できたことや認識に違いがあったこと】 若者に向けたプログラムの実施においては、各大学の状況や意向を丁寧にヒアリングすることでコロナ禍でリアルとオンラインのハイブリットでの開催を実現し高い相乗効果を生むことができた。 |
| 【今後改善が必要と思われること】 創業者に必要となる支援メニュー(助成金、展示会、セミナー等)を共有し、タイムリーに情報発信することで、高い相乗効果を生むことができているため、今後も引き続き裾野支援のために生かしていく。 |
| 事業の成果 (協働して事業計画を作るにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか) |
| コロナ禍において、事業継続・事業転換を図る経営者や創業を検討する方が増える中、創業期に必要な支援メニューなどを情報発信したことで、例年に比べ約 2.5 倍の PV 数を記録した。 また、新たに開始した学生等の若者向け起業家マインド育成プログラムでは、コロナ禍で大学の授業もままならないことも課題とされている中、「起業について学びたい、就活が不安」といった学生のニーズがマッチし、定員を大きく上回る応募があった。 委託先と横浜市がそれぞれ主体的に事業にかかわり、専門性を発揮することで高い成果を上げることができた。 |
| 自由記入欄 |
| |